



鳥類の調査状況及び成果

常陸大宮市の鳥の調査を、今年4月から本格的に始めました。今年度は、主に久慈川水系を調査し来年度は那珂川水系について実施する予定です。

今回は、これまでに確認や撮影ができた貴重な種の一部を紹介します。



茨城生物の会 仲田 立

サシバ (タカ科)

里山を代表するタカの仲間で、夏鳥として渡来します。ヘビやカエルなどを食べます。「ピクイー」と良く鳴きます。



ノスリ (タカ科)

留鳥または漂鳥で、山地林で繁殖し、冬季は農耕地でよく見ることができます。主にネズミ類を食べます。野を擦るように飛ぶのが和名の由来といわれます。



探しています!

古文書・古写真・古い石塔・昔話・珍しい動植物などは、本市の歴史を調査する重要な手がかりです。お心当たりがありましたら、ぜひご一報ください。

サンショウクイ (サンショウクイ科)

夏鳥として、山地の広葉樹林に飛来します。フライングキャッチして昆虫類を食べます。「ピリリー」という鳴き声が、山椒の実を食べてヒリヒリしているように聞こえるというのが和名の由来です。



私は、これまで御前山ダム周辺まではたびたび訪れていましたが、それ以外の常陸大宮市内の鳥の観察を詳しくする機会はありませんでした。縁有って今回の調査をすることになり、里山から山地林に至る、常陸大宮市の自然の豊かさを楽しませてもらっています。

国のレッドデータブックに記載されている貴重な種や近頃数を減らしていると言われるものを含め、これまで82種の鳥を観察することが出来ました。平成31年度までの調査で、どんな鳥に出会えるか、再度クロツグミなどの美しい鳴き声を聞くことができるか楽しみです。

■問い合わせ■

文化スポーツ課

文化・スポーツグループ ☎ 52-1111 (内線 344)